

30代の初め、シドニーでのIASS視察団に参加した際、とあるケーブルメーカーと出会った。ドイツのPFEIFER社である。ガラスファサード、サッカースタジアム、吊屋根、ケーブルを使った建築物にはほぼ全てPFEIFERが関わっていた。その後、PFEIFER STRUCTURESという膜+ケーブル+鉄骨+開閉装置を有する専門会社が発足し、世界中のスタジアムや吊橋などを手がけている。

斎藤先生との出会いと視察団の仲間達との繋がり

斎藤公男日大名誉教授とのプロジェクトは、その都度120%の技術を求められ、必死でこなしていくうちに、エンジニアとしての力が付いていった。また、視察団で出会った仲間たちはその後も様々なプロジェクトで再会し、新しいチャレンジや難しい課題を解決していくうちに、深い絆が生まれた。「大切なのは人との繋がりと誠実な対応である」と語る。

FABSPACE JAPAN代表取締役就任

昨年、長年勤めた神鋼鋼線工業を定年退職し、FABSPACE JAPANの代表取締役に就任。念願のPFEIFER STRUCTURESの日本におけるエージェントとしてスタートをきった。テンション構造の設計・テンション材の提供・取付及び緊張工事などPFEIFER STRUCTUREが世界で展開している内容を日本でも提供できる体制作りを行う。まずは、PFEIFER社のFull Locked Cableを日本の建築・橋梁に採用できるよう導入する。このケーブルの特徴は垂鉛めっきの5倍以上の防錆能力を持つGALFAN coating（垂鉛アルミめっき）が施されている高強度のロックドコイルロープを使っていることである。また、神鋼鋼線工業など日本国内のケーブルメーカーとも連携していく。「日本のテンション構造が活性化すると嬉しい。近年、膜構造も少なくなってきたことも残念に感じている。空間構造の発展に力を注ぎたい」と語った。

文・写真：町田有紀江



人 Human

田川 英樹さん (FABSPACE JAPAN代表取締役)

HIDEKI TAGAWA

1962年4月17日生まれ 長崎県出身 1985年九州工業大学 開発土木工学科卒業 同年、神鋼鋼線工業入社 2022年同社を定年退職 同年、FABSPACE JAPAN 入社 代表取締役就任